



医家向け取扱説明書



CooperVision®

1. 処方手順

※バイオフィニティ アクティブは、球面レンズと同じ処方手順となります。

1 問診

問診、事前検査を行い、禁忌となるような疾患がないか確認します。

(問診時の確認事項)

- ・レンズの装用経験
- ・使用動機
- ・職業（仕事環境等）
- ・その他、眼科医が必要と思われる事項

2 角膜形状測定

オプサルモメータやケラトメータで角膜曲率半径を測定して、処方上の参考にします。ハードコンタクトレンズ装用者の場合、コンタクトレンズ脱後 1 週間程度期間を置かないと、角膜曲率や視力が安定せず、視力やフィッティングが変動することがあります。

3 屈折検査

他覚的屈折検査と自覚的屈折検査を行い、眼鏡テストレンズによる矯正視力を測定します。

4 前眼部検査、その他の検査

細隙灯顕微鏡（スリットランプ）により、角膜異常の有無、結膜炎・角膜炎等の医学的禁忌の有無及び角膜混濁等の有無を確認します。また、シルマー試験、綿糸法等により涙液の量を調べ、BUT 検査等により涙液の質を調べます。これらの総合的な検査により涙液減少症、角結膜乾燥症等の有無を確認します。必要に応じて、眼圧の測定や眼底検査を行います。

5 トライアルレンズの選定

《球面レンズ》

自覚的屈折検査で得られた屈折度数を参考に、トライアルレンズの球面度数を選択します。自覚的屈折検査度数が ± 3.00 もしくは $\pm 4.00D$ 以上の場合、頂点間距離補正を行ってください。

(最終処方度数はフィッティングと追加矯正を確認した後に決定してください。)

《トーリックレンズ》

自覚的屈折検査で得られた屈折度数を参考に、トライアルレンズの球面度数、円柱度数及び円柱軸を選択します。自覚的屈折検査度数が ± 3.00 もしくは $\pm 4.00D$ 以上の場合、頂点間距離補正を行ってください。

(最終処方度数はフィッティングと追加矯正を確認した後に決定してください。)

《マルチフォーカルレンズ》

自覚的屈折検査で得られた屈折度数から等価球面度数を算出し、 $+1.00D$ 追加した球面度数のトライアルレンズを選択します。自覚的屈折検査度数が ± 3.00 もしくは $\pm 4.00D$ 以上の場合、頂点間距離補正を行ってください。

(最終処方度数はフィッティングと追加矯正を確認した後に決定してください。)

6 フィッティング検査

トライアルレンズ装着後 15 分以上経過してからフィッティングの評価を行います。以下の⑦処方判定と判定基準に基づいてフィッティング状態を確認し、矯正視力や本人の装用感なども加味して総合的に判断します。良好なフィッティング状態が得られない場合は、処方を中止してください。

7 処方判定と判定基準

1) レンズの安定位置

- ・正面視においてレンズが角膜を十分に覆っていることを確認します。
- ・レンズが多少偏位していても、装用感、視力等に影響がなければ適応と判断できます。

2) レンズの動き

正面視及び上方視において、瞬目時に $0.2 \sim 1.0mm$ の動きが観察できれば適応とします。プッシュアップテストを行い、動きが見られない場合は、非適応とします。

3) エッジ部の接触状態

レンズエッジ部が球結膜を圧迫していないか確認します。

《トーリックレンズ》

4) ガイドマークの回転方向と安定性

レンズは角膜や眼瞼形状により回転することがあります。ガイドマークにより回転の方向と安定性を確認してください。レンズのガイドマークは下方 6 時方向に 1 本あります。

①ガイドマークの方向安定性

- ・瞬目時あるいは瞬目を繰り返した時にガイドマークの回転が 10° 以内であることを確認します。
- ・瞬目によりレンズが 10° 以上回転し不安定な場合は、視力が不安定になるので処方を中止してください。

②ガイドマークの安定方向

- ・ガイドマークの安定方向（角度）を観察し記録します。
- ・レンズが回転している場合は、レンズの円柱軸の補正が必要となります。

③円柱軸の補正

ガイドマークが下方 6 時方向で安定している場合は、目の乱視軸に近い軸度を処方します。ガイドマークが 10° 以上回転している場合は、円柱軸を補正します。

- ・ガイドマークの 6 時方向から時計回りに回転している場合は、目の乱視軸にガイドマークの回転角度を加えます。
例：目の乱視軸 160° 、時計回りに 20° 回転、 $160^\circ + 20^\circ = 180^\circ$ （処方円柱軸）
- ・ガイドマークが反時計回りに回転している場合は、目の乱視軸からガイドマークの回転角度を差し引きます。
例：目の乱視軸 180° 、反時計回りに 20° 回転、 $180^\circ - 20^\circ = 160^\circ$ （処方円柱軸）

8 追加矯正

《球面レンズ》

トライアルレンズの上から、眼鏡テストレンズを用いて追加矯正を行います。その際、過矯正に注意し、必要に応じて近方視力も確認します。

《トーリックレンズ》

トライアルレンズの上から、眼鏡テストレンズを用いて追加矯正を行います。その際、過矯正に注意し、必要に応じて近方視力も確認します。追加球面度数のみで視力が出ない場合、再度トライアルレンズの円柱度数及び円柱軸の見直しを行います。

《マルチフォーカルレンズ》

トライアルレンズの上から、眼鏡テストレンズを用いて追加矯正を行います。まず、近方の見え方を両眼開放にて確認します。必要に応じて両眼同時に $+0.25D$ ずつ追加していき、近方の見え方に満足できる球面度数を求めます。その後、遠方の見え方を両眼開放にて確認しながら、両眼同時に $-0.25D$ ずつ追加していき、遠方の見え方に満足できる球面度数を求めます。再度、近方の見え方を両眼開放にて確認し、遠方近方ともに満足できるように微調整を行います。

9 処方決定

フィッティングの判定、追加矯正の結果より処方データを決定してください。

10 患者指導

患者に対し、「4. 患者指導」の項目に記載された内容を説明・指導してください。

2. レンズの着脱

① レンズを取扱う前に

- 1) レンズを装着する前に包装、ブリストアパック、レンズに異常がないかを必ず確認してください。
- 2) 目やレンズにキズをつけないように爪はいつも短く切ってなめらかにしてください。
- 3) レンズに触れる前には、手を石鹸でよく洗い、水道水でよくすすいでください。
- 4) レンズを落としても見つけやすく、汚れにくい清潔な場所を取扱ってください。
- 5) 洗面台で取扱う場合は、レンズを流さないように排水口に栓をされることをおすすめします。

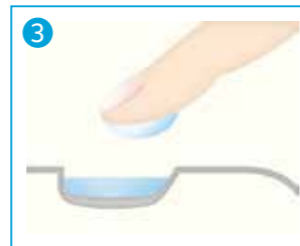
② ブリストアパックの開け方

- 1) 外箱を開封します。
 - ・ブリストアパックを取り出し、アルミシールのミシン目にそって山折りにして切り離してください。(パキッと音がします)
- 2) ブリストアパックを開封します。
 - ・開封時にアルミシールで手指を切らないように注意してください。
 - ・ブリストアパックを持ち、手指が滑らないようにアルミシールの端をしっかりとつかみアルミシールを丁寧にはがしてください。
 - ・アルミシールをはがすときに保存液が飛び出すことがあるので注意してください。



③ ブリストアパックからの取り出し方

- 指の腹に吸い付けるようにしてまっすぐ上に引き上げます。
- ・容器の底を滑らせるように取り出すと、レンズが破損する場合があります。
 - ・レンズがアルミシールの裏側やブリストアパックに付着している場合があります。その場合は、破損やキズに注意してレンズを取り出してください。



④ レンズチェック

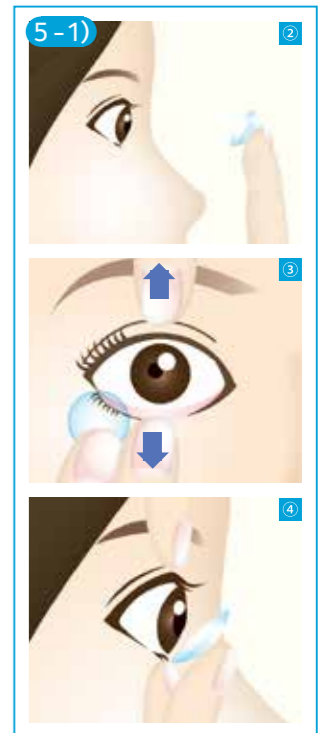
- 1) レンズに異常がないか確認します。
 - ・異常があるレンズを使用すると、目に障害を与える場合がありますので使用しないでください。
- 2) 装用前にレンズの表裏、左右を確認します。
 - ・入れ間違えると、異物感や視力不良、レンズがはずれやすい等の原因になることがあります。



⑤ 院内でのレンズの着脱

1) レンズのつけ方

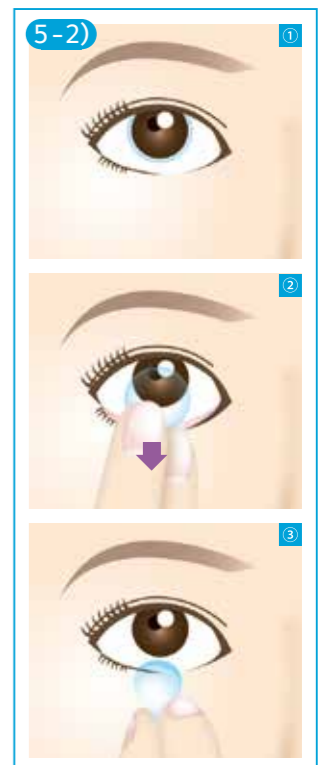
- ①患者さんは椅子に腰掛けた状態で正面を見てもらいます。
- ②レンズを利き手の人差し指の先端に凹面を上にしてのせます。
- ③レンズをのせている手の中指で患者さんの下まぶたを押し下げ、反対の手の指で上まぶたのまつ毛の生え際を引き上げて、目を大きく開けます。
- ④人差し指にのせたレンズを角膜にそっとのせ、レンズが角膜にのったことを確認したら、上下のまぶたを押し広げている指をそっと離し、患者さんに痛みがないか確かめます。痛みがある場合は、レンズをはずし、洗浄・すすぎ後、再度装着します。
1日使い捨てレンズの場合は、新しいレンズと交換します。



2) レンズのはずし方

- ①レンズを角膜下方にずらすため、患者さんに軽く上方を見てもらいます。
- ②中指で下まぶたを下げます。手指の水分を拭き取っておくと、下まぶたを引き下げるときに指がすべりにくくレンズがつまみやすくなり、はずしやすくなります。
- ③レンズが角膜より下方にずれていることを確認します。下まぶたを下げている同じ手の親指と人差し指を使って、レンズの下方を軽くつまみはずします。

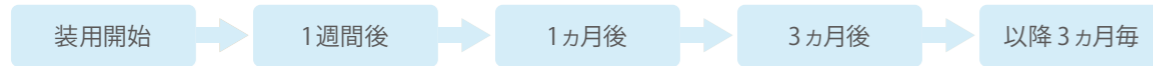
注意：角膜や結膜にキズをつけないために、指先や爪が直接目に触れないようにしてください。
レンズが2つ折りになった状態で強くつまむと破損する恐れがあります。



3. 定期検査

レンズを快適かつ安全に装用するために、定期検査を必ず受けるよう患者さんに指導してください。

1 定期検査スケジュール



2 定期検査項目

- ①問診 ②視力検査 ③前眼部検査 ④フィッティング検査 ⑤レンズ検査

3 検査時に注意すべき症状

- 1) 検査所見により、必要に応じて処方変更、取扱いの再指導、装用中止、装用時間の短縮等を行ってください。
- 2) 装用開始後に疾病、妊娠、出産、薬剤の使用等による体調や目の変化、あるいは生活環境の変化により装用が不適になる場合があります。

4. 患者指導

レンズを快適かつ安全に装用するために、以下の点について患者さんに指導してください。

- 1 レンズを使用する前に必ず添付文書をよく読み、必要なときに読めるように保管する。
- 2 装用時間には個人差があるため、指示された装用時間を守る。
- 3 レンズは使用期間が決まっているため、使用期間を超えることなく定期的に新しいレンズと交換する。
1日使い捨てレンズ：1日で新しいレンズと交換します。一度、目からはずしたら再使用せず廃棄するように指導してください。
2週間交換レンズ：2週間を超えることなく定期的に新しいレンズと交換するように指導してください。
- 4 レンズやケア用品（特にレンズケース）は清潔に保ち、正しい取扱い方法を守る。
レンズやケア用品（2週間交換レンズの場合）の取扱い方法を誤ると眼障害につながる場合があります。
- 5 異常がなくても眼科医に指示された定期検査を必ず受ける。
自覚症状がなく調子よく装用していても、目やレンズにキズがついたり、眼障害が進行している場合があります。
- 6 レンズ装用前に目ヤニや充血がないか、またレンズをつけた後も異物感等がないか確認し、異常を感じたら眼科を受診する。

- 7 レンズ装用前にレンズに破損等の不具合がないか確認し、不具合が認められたレンズは装用しない。
装用中に症状が発生し改善しない場合、眼科を受診するように指導してください。

8 装用時の注意

- 1) 自分のレンズを他人に渡したり、他人のレンズを使用しない。
- 2) アレルギー疾患を有する場合は、有害事象が発生する可能性が高まる。
- 3) レンズ紛失時及び装用中止時の対応として予備レンズ、眼鏡を携帯する。
- 4) 化粧はレンズをつけてから行う。化粧落としはレンズをはずしてから行う。化粧品等がレンズにつかないようにする。
- 5) 人工涙液は防腐剤を含まないものを使用する。
- 6) 入浴や水泳の際はレンズをはずす。
- 7) レンズに強い力を加えたり、折り曲げたり、爪を立てない。
- 8) レンズ装用中に目をこすらない。
- 9) レンズに慣れるまでは車の運転や機械操作は行わない。
- 10) レンズを装用してテレビやコンピューター、携帯電話の画面を長時間見続けると目が乾くことがあるため、意識してまばたきをする。
- 11) レンズ乾燥の原因となるため空調や扇風機等の風を目に長時間当てない。
- 12) 眼障害のために装用を中断した場合は、眼科医の指示に従い再装用の許可が出てから装用する。

- 9 レンズは直射日光及び凍結を避けて室温で保管する。

10 レンズケア（2週間交換レンズの場合）

- 1) ケア用品の使用説明書、表示事項等に従いケアを行うとともに以下のことを守る。
 - ・レンズ両面を十分にこすり洗いを行う。
 - ・レンズ装用前にすすぎ洗いを行う。
 - ・マルチパーパスソリューションは、開封後1ヵ月を目安に使用する。
 - ・使用後の消毒液は再利用しない。
 - ・消毒液は他の容器に入れ替えない。
- 2) レンズケースの管理方法
 - ・レンズケースは定期的に新しいものと交換する。
 - ・使用後のレンズケースは中の消毒液を捨て、流水またはマルチパーパスソリューションでよく洗った後、自然乾燥させる。

《マルチフォーカルレンズ》※バイオフィニティ アクティブは、球面レンズと同じ処方手順ですが、マルチフォーカルレンズとして承認を取得しているため、以下をご確認ください。

11 マルチフォーカルレンズの注意

- ・マルチフォーカルレンズでは1枚のレンズ中に遠用から近用までの度数があり、それらを通る光は同時に網膜上に映し出されます。そのうちの明瞭な像を無意識のうちに選んで見ていることがありますが、ときに像のボケやだぶりを感じたりすることがあります。
- ・見え方に慣れるまで、一般的な単焦点のコンタクトレンズより時間がかかる場合があります。
- ・明るいと暗いところでは見え方が異なることがあります。
- ・車の運転や機械の操作などは見え方に十分に慣れてから行ってください。

各製品の装用者向け添付文書はこちらよりダウンロードいただけます。
<http://coopervision.jp/practitioner/list>



 **クーパービジョン**
公式Facebookページ



 **クーパービジョン**
公式Twitterページ



製造販売元：クーパービジョン・ジャパン株式会社

製品についてのお問い合わせ先  **0120-132-410** 月～金曜日9:00～17:00(祝日は休み) www.coopervision.jp